

台風11号接近に伴う農作物管理

令和4年 9月 1日
アグリあなん経済部

台風11号の通過が予想されますので、農作物対策についてご配慮下さい。
また、台風通過中は危険ですので圃場へは出向かないようにして下さい。

○施設(共通項目)の事前対策

- ・ハウスは取り付け金具の締め直しやマイカー線の固定、側杭の補強を行うと共に、防風ネットなどの点検を行って下さい。
- ・強風が予想される為、ビニールが除去できるハウスや防虫ネット等は、程度に応じて巻き上げて紐で束ねるか予め除去して下さい。
- ・ビニール被覆しているハウスは、強風時には密閉し、換気扇を作動させましょう。
- ・ハウス周辺に排水溝を設けて下さい。
- ・苗は寒冷紗等でベタ掛け被覆し、風による被害軽減に努めて下さい。

○アスパラガス

- (1) ハウス等の施設に被害があった場合は、早急に修理するとともに溝切りなど、排水対策を実施して下さい。
- (2) 斑点病・灰色かび病予防のため
アフエットフロアブル 2000倍(100~300ℓ/10a)(収穫前日まで/4回以内)を散布。

○サンチュ

- (1) ハウス等の施設に被害があった場合は、早急に修理するとともに、溝切りなどにより排水対策を実施して下さい。
- (2) ベタ掛け資材で被覆をしていた圃場は、台風通過後できるだけ早く除去して下さい。
- (3) 茎葉に付着した土を水で洗い流し、倒伏や傷んだ葉は早めに廃棄して下さい。
軟腐病予防として散布して下さい
バリダシン液剤5800倍(100~300ℓ/10a)(収穫3日前まで/3回以内)

○いちご

- ・育苗ハウス等の施設に被害があった場合は、早急に修理するとともに、冠水した育苗床は、早急な排水に努めて下さい。
- ・強風も予想されますので苗をベタ掛け資材等で被覆して下さい。台風通過後はできるだけベタ掛け資材を早く除去して下さい。

普通ポット

- ・子苗の草勢回復を図る場合は、メリット青500倍等の薄い液肥の葉面散布を行って下さい。
- ・茎葉に付着した土を水で洗い流し

オーソサイド水和剤801500倍(100~300ℓ/10a)(収穫14日前まで/5回以内)を散布。

- ・炭そ病が懸念される場合は
ゲッター水和剤 1000倍(100~300ℓ/10a)(収穫21日まで/3回以内)を散布。
- ・冠水した苗に対しては、水洗いに努め薬害の回避のため1日置いて薬剤散布を行って下さい。
- ・疫病対策として
ランマンフロアブル 500~1000倍(50mℓ/株)(育苗期 土壌灌注/2回以内)を灌注。
夜冷ポット … 夜冷中の苗は台風通過中には外部に出さなで下さい

○ネギ

- (1) ハウス等の施設に被害があった場合は、早急に修理するとともに、溝切りなどにより排水対策を実施して下さい。
- (2) 草勢の回復を図る場合には、薄い液肥の葉面散布等を行って下さい。
- (3) 葉に付着した土は、水で洗い流して下さい。
トップジンM水和剤 1000倍(100~300ℓ/10a)(収穫7日前まで/3回以内) 又は
アフエットフロアブル 2000倍(100~300ℓ/10a)(収穫前日まで/2回以内)のどちらかを散布して下さい。
- ・急激な高温に注意して下さい。

○露地野菜(共通項目)の事前・事後対策

- (1) 浸水・冠水した圃場は、早急に排水に努め、適正水分に戻して下さい。
- (2) ベタ掛け資材で被覆していた圃場は、台風通過後できるだけ早く除去して下さい。
- (3) 茎葉に付着した土は水で洗い流して下さい。
- (4) 各作物の農薬登録基準を遵守して、殺菌剤を散布して下さい。
- (5) 株元が露出していたり、降雨により土壌が締まっていたら、天候の回復を待って株元へ土寄せするとともに、畦全体を軽く中耕し通気性をよくして下さい。
- (6) 豪雨により肥料の流失が考えられる場合は、速効性の肥料を追肥して下さい。
草勢の回復を図る場合は、薄い液肥の施用や葉面散布を行って下さい。

○オクラ・キャベツ・ブロッコリー

- (1) 浸水・冠水した圃場は、早急に排水に努め、適正水分に戻して下さい。
- (2) 茎葉に付着した土は、水で洗い流して下さい。
- (3) 病害の発生の恐れのある圃場では、それぞれの作物、病害に適した登録農薬(殺菌剤)を散布して下さい。
- (4) 豪雨等により株元の露出や、土壌が締まっていたら、天候の回復を待ち株元へ土寄せするとともに、畦全体を軽く中耕して通気性をよくして下さい。
- (5) 倒伏しかかった株はあわてて起こさず、樹勢の回復を待ってから行って下さい。
- (6) 豪雨により肥料の流失があると考えられる場合は、速効性の肥料を施用して下さい。
草勢の回復を図る場合は、薄い液肥の施用や葉面散布を行って下さい。
- (7) 暴風雨によって折れた枝や、傷ついた果実は早めに丁寧に除去して下さい。

- ・オクラ
トップジンM水和剤 1500倍(100~300ℓ/10a)(収穫前日まで/3回以内)を散布。
- ・キャベツ
トップジンM水和剤 1000倍(100~300ℓ/10a)(収穫3日前まで/2回以内)を散布。
- ・ブロッコリー
カスミンボルドー 1000倍(100~300ℓ/10a)(収穫7日前まで/4回以内)を散布。

○果樹

・事後対策

○ハウスすだち

かいよう病の感染・蔓延を防止して下さい。

- ・展葉期はドイツボルドーA 1000倍 (クレフノン200倍加用)を散布して下さい。
- ・新梢葉硬化直後は、ICボルドー66D 50倍を散布して下さい。
- ・夏秋梢伸長抑制
フィガロン乳剤 1000倍(2回/収穫60日前まで)又は
ターム水溶剤 1000倍(2~3回/再萌芽時但し収穫前日まで)

○ハウスみかん

- ・夏秋梢伸長抑制
フィガロン乳剤 1000倍(2回/収穫60日前まで)又は
ターム水溶剤 1000倍(2回/前日)

○ハウスデコボン

- ・褐色腐敗病 アリエッティ水和剤 400倍(3回以内/収穫前日まで)

○露地みかん

- (1) 台風通過後、樹体倒伏があれば、露出した根が乾かないうちに起こして株元へ土寄せをして下さい。
- (2) 枝折れしたものはなるべく早く切り返し、切口にトップジンペースト(3回以内)又はバッチレート(3回以内)を塗布して下さい。
- (3) 葉や枝損傷部からの病害侵入対策を実施して下さい。
黒点病 ジマンダイセン水和剤 500倍(収穫30日前/4回以内)
- (4) 風傷果の発生が多くなる可能性が高いので、摘果時にきれいな果実を残すよう心がけて下さい。
- (5) 新葉が少ない表年の樹で落葉が多い場合は、摘果を強め着果量を少なくして下さい。
尚、着果量が少ない樹については、品質向上のため収穫直前の樹上選果で対応して下さい。
- (6) 着果量が極端に少ない十万温州樹については、9月末までに全摘果とし、次年度の着果量確保に努めてもよい。
アリエッティ水和剤 800倍(200~700ℓ/10a)(収穫前日まで/3回以内)を散布

○露地すだち

- (1) 台風通過後、樹体倒伏があれば、露出した根が乾かないうちに起こして株元へ土寄せを行って下さい。
- (2) 枝折れしたものはなるべく早く切り返し、切口にトップジンペースト(3回以内)又はバッチレート(3回以内)を塗布して下さい。
- (3) 露地すだちは収穫中にあたるため、収穫直後にかいよう病防除の徹底をかかして下さい。

○露地ゆず

- ・黒点病の防除が中心となります。後期感染時期に入るので、栽培管理暦を基準に黄玉出荷体系に合わせた防除を行って下さい。

黄玉出荷に対する黒点病防除は

- オキシンドー水和剤 80 800倍(収穫30日前まで/3回以内)
- ファンタジスタ顆粒水和剤 2000倍(収穫14日前まで/3回以内)
- ナリアWDG 2000倍(収穫14日前まで/3回以内)

○花き

- (1) 浸水・冠水した圃場は速やかに排水し、軽く中耕を行って根の活力の回復を図って下さい。
- (2) 倒伏したものは、速やかに支柱等を修復し、株元から起こして茎曲がりを防止して下さい。
また、殺菌剤をたっぷり散布し葉についた汚れを落とすと共に病害の発生を防止して下さい。
- (3) 湿害等の影響で根が弱っている兆候が見られる場合は、液肥の葉面散布を行って下さい。
- (4) 倒伏・転落した洋ランの鉢は速やかに復旧し、付着した土砂を水洗いした後、疫病や軟腐病等の対策として殺菌剤の散布を行って下さい。

○ケイトウ

- (1) 倒伏した場合は、軸の曲がり防止するため、太陽の直射を受ける前までにネット全体を起こし早めの復旧を行って下さい。
- (2) 病害防除については、作型により使用薬剤が異なるため降雨の合間に薬剤ローテーションを参考に防除を行って下さい。出荷直前の薬剤使用については、担当者に確認して下さい。

○畜産

- (1) 畜舎の冠水後は疾病等の発生予防を心がけ、十分な観察を行い早期発見に努めて下さい。
- (2) 濡れた飼料は腐敗を起こしやすいので廃棄して下さい。
- (3) 尿溜槽を設置している場合は、雨水で増水しているため、バキュームカーで汲み取り晴天を見計らって散布し、速やかに耕耘して下さい。
- (4) 疾病やケガが発生していないか十分な観察を行い、早期発見に努めて下さい。